

立命館経済学 第十二卷総目次 (昭和三十八年度)

論 説

計量経済学モデルによる戦後景気循環の構造分析 (一) 岡崎不二男 一(一)——四(四)

——制約された循環か自由な循環か——

経済と政治における自由の展生 (二) 高橋良三 四(四)——五(五)

——その史的概観——

広い意味での経済学について (承前) 木原正雄 五(五)——六(六)

——「社会主義経済学」の生成と発展——

中国国民経済の発展過程 (二) 松野昭二 六(六)——七(七)

——工・農業関係の発展を中心として——

A・スミス D・リカード 箕浦格良 七(七)——八(八)

J・S・ミルにおける租税理論の展開 加藤睦夫 八(八)——九(九)

——古典学派における財政思想 (二)——

戦後地方経費の展開過程 川本和良 九(九)——一〇(一〇)

一八世紀後半および一九世紀前半における
ライン・ヴェストファーレン鉄加工業の発展と市場構造 川本和良 一〇(一〇)——一一(一一)

社会統計における母集団の意義……………	関 弥三郎	三…………一(一五)——	二〇(三七〇)
A・スミス D・リカアドオ			
J・S・ミルにおける租税転嫁論の展開……………	箕浦 格良	三…………三(三七)——	五(三〇五)
——古典学派における財政思想(三)——			
計量経済学モデルによる戦後景気循環の構造分析(二)……………	岡崎不二男	三…………五(三〇)——	二(二六)
——制約された循環か自由な循環か——			
経済における国家の問題(一)……………	高橋 良三	四…………一(二六)——	三(三七四)
金融資本にかんする一考察……………	小牧 聖徳	四…………三(三七五)——	二五(三八七)
A・スミス D・リカアドオ			
J・S・ミルにおける租税転嫁理論の考察……………	箕浦 格良	四…………六(三六)——	五五(四二七)
——古典学派における財政思想(四)——			
広い意味での経済学について(承前)……………	木原 正雄	四…………五(四六)——	九(四五四)
——「社会主義経済学」の生成と発展——			
リカアドオと農業……………	井上 次郎	五…………一(四八)——	二四(五〇四)
西独の労働者教育……………	平 田 隆夫	五…………五(五〇)——	四九(五九)
経済学における分析モデル……………	今 川 正	五…………五(五〇)——	八六(五六〇)
『資本論』における科学と哲学……………	清 水 正徳	五…………八(五七)——	二〇(五八三)
——梯明秀教授の所説によせて——			
现阶段における農民層分解の特質……………	大藪 輝雄	五…………二(四九)——	二四(六三)

独占資本主義のもとでの経済成長の限界……………白杉庄一郎 五・六…一四(六四)——一七(六五)
(遺稿「剰余価値の理論」の中の一節)

資 料

董輔礪「マルクス再生産表式の具体化についての試論」……………松野昭二 四…三(四五)——二七(四五)
——社会的生産物の生産と使用の統一的角度から——